

1. アプサラ新人事について

アンコール地域遺跡保護整備機構(アプサラ)については1999年2月16日付で新人事が発表となりました。上席大臣・総裁に Vann Molyvann 閣下(英語では Senior Minister, President Executive Director of the APSARA)、国務副長官・副総裁に Seung Kong 閣下(Son Excellence Monsieur Seung Kong, Directeur General Adjoint de 1 Autorite APSARA, avec rang de Sous-Secretaire d Etat)、事務長は Mme Kenya Eng Sun 以下6名です。

2. 副総裁 Seung Kong 閣下の来日について

会議出席および親族訪問を兼ねて、8/1(日)に10日間の予定で来日します。調査団出発日であり、関係者で対応します。

3. 調査団の人の動き

- (1) 遠藤宣雄氏(上智大学客員研究員)は、UNV アドバイザーとして6月4日に日本を出発、現在シエムリアップ州アンコール地域北部21ヶ村の農村開発プロジェクトに参画し、張り切っておられます。6/19に現地事務所を訪れましたが、アドバイザー室にて農家一軒々の配地図を作成しておられました。2年間滞在いたします。1年後ホームリーブで一時帰国されます。
- (2) 重枝豊氏はかねてから準備中でありました学位請求論文『チャンパ王国の宗教建築における建築技術に関する史的研究』(321p,英文レジュメ付)(主査:小嶋、副査:片桐・石澤)を日本大学理工学研究科に提出され、2月16日の教授会で承認されました。おめでとうございます。
- (3) 丸井雅子さん博士論文提出資格試験について
5月26日上智大学大学院外国語研究科地域研究専攻の博士論文提出資格試験(筆記・口頭試問)が実施され、6月2日の同専攻科会議で承認されました。おめでとうございます。
- (4) Ek Bunta 氏は上智研修を経て文部省留学生として1996年10月に来日し、1997年4月上智大学大学院地域専攻博士前期課程に入学、1999年3月25日に修士の学位を授与され、3月27日に帰国しました。現在は国会議員 Nouth Narang 閣下が主催する Cedra Semi 研究所で研究を続けています。修士論文は「History of institution in Cambodia」でした。おめでとうございます。
- (5) 文部省留学生 Oum Ravy さんは1992年2月に修士論文「クメール口承伝承とチュバップ(古典着生訓)の中の女性像」を提出し、無事合格しました。おめでとうございます。彼女は引き続き博士後期課程に進みました。「クメール中世文学チュバップと日本の貝原益軒女大学との比較研究」(仮題)をテーマとして研究します。

4. アンコール研究会の開催

京大東南アジア研究センター福井捷朗先生が中心となって科研基礎研究(A)「東南アジアにおける半乾燥地の発展と停滞に関する比較研究」が2年前から開始されておりますが、3年次にアンコール地域で実地調査することになりました。12/23~1/23(農学班)、1/15~1/23(理論班)を予定しております。下記の通り「水利灌漑」を中心に下記の研究会が開かれました。調査団からは盛合禧夫、塚脇真二、Lao Kim Leang、石澤良昭、青柳洋治、田中和彦が出席いたしました。

日時:1999年7月9日(金)13:00~17:00,9日(土)9:30~15:00

場所:上智大学7号館第2会議室(9日)、10号館322会議室(10日)

プログラム

7月9日(金)

- 1. 水利社会説をめぐる論議の概要:趣旨説明に代えて.....福井捷朗(京都大学)
- 2. アンコール遺跡の地質学...盛合禧夫(東北工業大学)
- 3. 地形図から見たアンコール.....宇根實(国土地理院)
- 4. トンレサップ湖ならびにメコン河下流域における
過去6500年間の堆積変遷史一湖底堆積物の解析から.....塚脇真二(金沢大学)
- 5. アンコールの水質調査と環濠.....ラオ・キム・リアン
- 6. パライの水文学的検討.....後藤章(宇都宮大学)

7月10日(土)

- 7. コラート高原からみてトンレサップ地方に想像できる地形.....・..... ・田村俊和(東北大学)
- 8. コラート高原の侵食面地形の風化殻の形態的特徴.....・..... ..吉木岳哉(京都大学)
- 9. コラート高原における天水田の発生.....福井捷朗(京都大学)
- 10 碑文から見たパライ.....石澤良昭(上智大学)
- 11 総合討論
 - コメント1.....春山成子(早稲田大学)
 - コメント2.....足立明(北海道大学)

5. アンコール遺跡調査・研究等の刊行について

- (1) 連合出版から「アンコール遺跡を解明する」全4巻シリーズのうち第1巻『アンコール遺跡の考古学』(中尾芳治編)および第3巻『アンコール遺跡と遺跡地質学』(盛合禎夫編)が入稿されました。9月刊行の予定です。
- (2) 田村仁(写真)、石澤良昭(文)共著『アンコールの王道を行く』(淡交社、1999年2月)
- (3) H.TAMURA(Photo), Y ISHIZAWA: *Along the Royal Roads to Angkor*, Weatherhill, New York, June 1999

6. アンコール遺跡国際調整委員会について

「アンコール遺跡国際調整委員会」(ICC)が6月22日(火)プノンペンのカンボジアナ・ホテルで開かれ、44ヶ国65名が出席しました。私たち Sophia Mission は石澤、片桐、荒樋、丸井、三輪、隅田の6名が出席し、下記の報告ペーパーを用意し、その一部を発表いたしました。

Restoration of the northern part of the western causeway-dike of Angkor Wat.....Prof Masao Katagiri
Angkor Wat Western Gateway Archaeological Survey Report.....・.....document only
Training Projects 1991-1999

Project for training Cambodian specialists enters 9th year.....・Prof Yoshiaki Ishizawa
Report on the activities in Banteay Kdei temple-the first half of the year 1999-... ..Mr. Hisao Arai
Excavation of Tani Pottery Kiln Site in Angkor Area

Report on the 4th excavation of pottery kiln sites, March 1999-...・.....Ms, Masako Marui

7. 新カンボジア大使の着任について

新駐日カンボジア大使 Ing Kieth 閣下がこの6月に着任されました。閣下は前建設大臣の要職にあったシハヌーク国王陛下の主要側近の一人であります。石澤と遠藤は1983年パリ在任中に閣下を訪れ、アンコール遺跡の保存修復について相談したことがあり、長年の知友であります。着任をお祝い申し上げ、今後のご活躍をお祈り申し上げます。

(文責 石澤良昭)